

(記入例2 S造屋体)  
耐震性能判定表

事業名	大規模改造(補強)事業			都道府県名	〇〇県	都道府県番号	〇〇
番号	〇〇	設置者名	〇〇〇市		学校名	〇〇〇小学校	
建物区分	校舎	屋体	寄宿	階数	3	構造の種類	RC (S) SRC W その他( )
耐震性能の診断の対象となった棟	棟番号	3	建築年	S53年3月		面積	1,100 m <sup>2</sup>
							左のうち今回診断対象分
適用した方法	第2次診断 屋体診断基準 その他( )						
診断実施者名	〇〇〇設計 〇〇			左の持つ資格名	一級建築士(登録番号 〇〇〇号) 耐震診断講習会 受講番号 〇〇〇		
コンピュータソフトを使用した場合そのソフト名、作成者名	手計算						
判定委員会の名称	〇〇〇〇〇〇判定委員会						
I <sub>s</sub> (I <sub>w</sub> )又はq(C <sub>ru</sub> S <sub>D</sub> )が不足の方向・階	けた行き				はり間		
	1階	2階	3階	4階	5階	(1階)	2階 3階 4階 5階
I <sub>s</sub> (I <sub>w</sub> )、q(C <sub>ru</sub> S <sub>D</sub> )各指標の最低値				I <sub>s</sub> (I <sub>w</sub> )が最低の方向・階			
				階数 1階			
建物全体の補強・改修内容について							
耐震性能に係る各数値	既存建物	補強設計	補強前・補強後で左欄の数値が変更になった場合その補強・改修方法を○で囲み、( )内に箇所数を記入				
E <sub>o</sub>	0.32	1.08	RC壁 : 増設( ) 補強( )				
F <sub>es</sub> (S <sub>D</sub> )	1.00	1.00	RCそで壁 : 増設( ) 補強( )				
μ	/	/	RC柱 : 増設( ) 補強( )				
Z	1.0	1.0	ブレース : 増設( ) 補強( )				
R <sub>t</sub>	1.0	1.0	耐震スリット : 増設( )				
I <sub>s</sub> (I <sub>w</sub> )	0.32	1.08	基礎 : 増設( ) 補強( )				
q(C <sub>ru</sub> S <sub>D</sub> )	0.55	2.17	荷重軽減 : 軽減箇所名 ( )				
コンクリート強度	/	/	その他 : ( )				
補強工事全体事業費 (老朽・質的整備等は含まない)		〇〇, 〇〇〇 千円		内、耐震診断分 (補強設計含)		〇, 〇〇〇 千円	
耐震性能の診断・補強設計を行った設置者の診断者の所見				診断を終了した日		H〇〇, 〇, 〇	
既存建物の耐震性能の評価	剛床仮定が成立しないため、ゾーニングで診断を行った結果、はり間方向でI <sub>s</sub> 値が低くなっており、補強を要する。						
補強設計と補強後の耐震性能の評価	屋根面の水平ブレースを増設することにより、水平剛性を高め水平力を両妻面に伝達できるようにしたため、I <sub>s</sub> 値が上昇し、耐震性能を確保することができた。						

(注) 本判定表は、構造別に作成する。